

あいあいあい

I eye 愛

2021年
12月号



2021年10月4日 ミートセンター落成記念式典でのテープカット

夢と自信が溢れる工場で畜産の明日を考えよう

専務理事 高橋 正人

「日本で唯一の食肉加工工場ができた」ように思っています。「産直肉」の加工をしていること、包装に発泡トレーを使わないこと、そして障がい者が働く場として従業員数の半分を確保していること。これらが真っ先にお伝えしたい「あいコープミートセンター」の大きな特徴です。

更にあいコープはこれまで、PBあいシテルの委託製造工場を中心に、数多くの工場点検活動を行い、各生産者への指導と現場改善を行うなど、非常に高い品質管理能力を持っています。そのノウハウをフル活用し設計された工場で、品質・衛生管理を徹底しています。

10月に稼働を開始、11月からは全ての産直肉商品を生供給し始めました。ミートセンターでは豚と牛の食肉加工を行い、「整形（小骨や脂の除去）」「スライス（1枚ずつに切る）」「包装」の3工程を実施しますが、包丁を使う作業以外のすべてを「社会福祉法人みんなの輪」の障がいを持った方と共に取り組んでいます。作業着の着用や手洗いなど、基本的な作業に最も時間をかけて一つ一つ丁寧に学習し、県内トップレベルの衛生管理の下、組合員に自信を持って商品をお届けすると共に、みんなの輪の皆さんと一緒に活動し、地域福祉の推進に取り組んでいます。

工場2階には、組合員がイベントや学習会で使用できる「キッチンスタジオ」もあります。組合員が中心となり壁紙や家具、アイランドキッチンの選定も行い、非常にお洒落な空間となりましたので、キッチンスタジオでの組合員活動が行われる際にはぜひご参加ください。また、ここではあいコープのカメラマンが「まんま通信」に掲載する料理の写真撮影を行っています。生産者が魂を込めて作った商品の美味しさが伝わるように工夫をしながら、調理から撮影まで日々取り組んでいます。撮影後には調理品を試食しますが、さすがあいコープの商品。どれも絶品です。

豚や牛をはじめとした畜産動物は、人間の都合で生まれて死ぬ。それでも私たちは動植物の命をいただけながらエネルギーを摂取しなければならず、時には食品ロスも起こってしまいます。生活者（消費者）による協同組合である生協あいコープみやぎが、自分たちの手で行う食肉加工事業には、どのような価値があるのでしようか。あいコープミートセンターの稼働を契機に、動植物の命を頂くこと、その過程で生まれる畜産業が抱える課題について、組合員の皆さんと一緒に学び、考えていければと思います。

CONTENTS

▶ Wa! わお祭り 学習会報告 ……2	▶ 組合員の農産活動 2021 ……4-5	▶ 石けん使い方講座開催 ……7
▶ ながめやま牧場バーチャルツアー開催 ……3	▶ 切り落としミックスってどんな肉? ……6	▶ 畜産を知ろう! ジョブチューン開催 ……8

子ども達の食べもの大丈夫？

残留農薬が出た食べ物

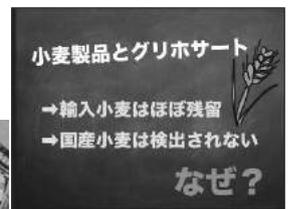
ホントにあるなんて…

「Wa!わあ祭り」企画第一弾として、農民連分析センターの八田所長とZOOM（ズーム）でつながり、学習会を開催しました。

米よりも小麦を多く食べているという今の日本人、そのほとんどが輸入小麦です。パンや麺類などの主食だけでなく、子供たちが大好きなお菓子の材料もほぼ輸入小麦。それには除草剤グリホサート（商品名ラウンドアップ等）がかけられていて、農民連の検査では実際に残留が確認されています。給食のパンの材料もほぼ輸入小麦なので、親として気になります。



一般社団法人農民連食品分析センター
所長 八田純人さん



様々な食べ物をの
残留農薬を調査

食べるものに除草剤を使う理由は、早く枯らして収穫時期を調整するため。温暖化のためなかなか自然に枯れない、長雨で発芽して品質が落ちるなどの気候変動の影響もあり、使う側にもやむにやまれぬ事情があるようですが、発がん性を認められているものが長期の子供や乳幼児が口にするのは不安です。国産小麦や有機の小麦には除草剤の心配はありませんが「モルトエキス」の材料として輸入小麦が使われていたり、表示の見方も注意が必要と知りました。

子育て真っ最中の「お父さん目線」で語られる、検査する側からの情報は参加者に印象深く残るものとなりました。

理事 辻朗子

始まりは

不思議な「縁」でした

Wa!わあ祭り2021では数多くのオンライン上映会が行われました。そのうちのひとつ「季節、めぐりそれぞれの居場所」の上映を記念して、11月8日、オンラインでトークライブが開催されました。

10年前の東日本大震災をきっかけに、石巻市渡波地区で高齢の方や障がいのある方たちの居場所を運営し続ける、NPO法人お茶っこケア（映画作品中に、前身となったサロンが登場「よってがいん」の糟谷裕之さんと、同じくNPO法人「のさりの鈴木智子さん（元あいこープ理事）を囲んでのお話会です。

シークレットゲストとして「季節、めぐり」で紹介された千葉県の託老所、NPO法人「井戸端介護」の代表、伊藤英樹さんをお招きし、それぞれが巡り会った「縁」のお話をお聞きしました。



◎大宮映像製作所

震災被害の最中、特別な助けが必要な方のために宮城県に入った伊藤さんと、ひよんなきっかけで伊藤さんに出会った糟谷さん。あいこープが渡波地区に支援に入ったことで糸がさらに結ばれ、今では渡波地区になくてはならない「居場所」が出来上がりました。

「震災時、あれだけ宮城県に入った支援団体も、数か月、数年でほとんど減っていった。そんな中でこの地に根を下ろし、支援を続けたのが糟谷さんたちだ」と伊藤さんがおっしゃいました。未曾有の災害の混乱の中で、生協がどう関わるべきか手探りで始まった支援だったようですが、あいこープがあいこープらしく地域福祉の力になれたのは、素晴らしい人との良いご縁のおかげだったのだと知る機会になりました。

理事 鈴木真奈美



今も渡波で頑張る
よってがいんの糟谷さん(左)と
のさりの鈴木さん(右)

考えすぎじゃない、怖い食の話

食の安全を守る人々は今

「安全安心な食べ物を」。これはあいコープみやぎの一番核となる思いです。私たちの思いとは裏腹に食の安全は日々後退しつつあります。

今回お祭りの企画で上映したドキュメンタリー映画「食の安全を守る人々」でも、除草剤に使われるグリホサートや遺伝子組み換え食品の怖さが描かれていました。

ところで、遺伝子組み換えはいぶん世の中に浸透した言葉となりましたが、このところ耳にする「ゲノム編集」食品、これって何?と気になりませんか?よくわからないけどいやな予感がするゲノム編集について、印鑰智哉さんにオンラインにて詳しくお話いただきました。



栽培履歴が確認出来た商品にのみ表示できる「OK シードマーク」
11月1回から
まんま通信に登場しました



OK シードプロジェクト
事務局長 印鑰智哉氏

お話によると、ゲノム編集は第一段階で“ゲノム編集を起こさせる遺伝子”を組み込むので結局遺伝子組み換えと変わらないこと、むしろ、加えるだけの遺伝子組み換えより、生物の元々の遺伝子自体を破壊してしまうためかえって不安が増すことが分かりました。

本来「編集」とは切り貼りしてきちんと繋ぎ直すもの。ところがゲノム編集は破壊しつばなしで、どのように修復するかは運任せ。予想しない変異が起きてもいるようです。これが特に表示も必要なく届け出をするだけで流通してしまうのは本当に恐ろしいことです。みんなでゲノム編集反対の声をあげていきましよう。

理事 櫻井洋子



牛たちに手が届きそう!

ながめやま牧場を見学しました

おうちから



コロナ禍でいろいろな活動が中止となっているこの2年。毎年バス2~3台でたくさんの組合員と訪れていた「ながめやま牧場バスツアー」もその一つです。今年は少しでもながめやま牧場の様子や放牧パスちゃん牛乳の魅力をお伝えしたい!ということで11月13日「ながめやま牧場バーチャル見学&クイズ大会」と題したオンラインツアーを行いました。

あらかじめ理事が牧場へ訪問し撮影した動画に加え、ながめやま牧場の副場長の松岡健さんの牛舎からの生配信。ゆったりと過ごす牛さんたちの様子や牧場の空気をご自宅から感じてもらいました。また、「パスチャライズ殺菌とは何℃で何秒?」など放牧パスちゃん牛乳や牧場、牛についてのクイズも楽しみました。

参加した組合員は、親子で相談しながらクイズの答えの札を出して参加してくれました。配送職員さんや松岡さんからの難問にも盛り上がりしました。

画面越しではありましたが、少しは牧場の雰囲気を感じてもらえたかと思います。しかし、来年こそはみんなでながめやま牧場に!参加者全員がそう強く思った企画となりました。

青葉B地区担当理事 原子良恵



ガイドさん(?)が
ながめやまへご案内



松岡副場長による
牛舎からの生配信!



←パスちゃん柄のオリジナル
手ぬぐいが旅のお土産(参加賞)

あいコープ組合員の農産活動2021

2021年も終わりを迎えます。組合員が楽しみにしている田んぼや畑の農産活動も、新型コロナの影響で思うようにできない一年でした。そんな中でも、あいコープの農産産地は変わらず生産を続けています。今月号では、この一年、規模を縮小したりしながらも続けた、産地と組合員との交流活動の様子をお届けします。



仙台市若林区の七郷クローバースファームでは、組合員と共に無農薬の米に挑戦!3年目となる今年も、春に登録した5家族が一年間米作りに挑みました。コロナの影響で集まらない時期も、生産者と組合員が力を合わせてお世話に励み、はびこる雑草に心折れそうになりながら、無農薬の難易度の高さを痛感。10月に参加者みんなで鎌を持って刈った稲は、金色の宝物です。

無農薬 汗かき勤しむ 草取りの組合員の手 諦め知らず
トライ田んぼ@七郷クローバースファーム

種を撒き 恵みを頂き 種を採る
繰り返される 農の営み
たねまきプロジェクト@秋保ゆうきの会



種子法、種苗法についての学びの一環として、秋保ゆうきの会渡辺重貴さんと取り組む「たねまきプロジェクト」は3年目。「種」と「可食部」が同じものであることから種の存在を実感しやすいとして選ばれた小豆ですが、収穫時期が読みにくかったり、熊に食べられたり(!)とこれまで色々ありました。今年胸を張って豊作と言える出来。来年に繋ぐ大切な種を選び取った残りは、お汁粉にさせていただく予定です!



先人の笑顔が浮かぶ 稲の束
続けていきます 「交流の米」
田んぼに行こう@大郷グリーンファーマーズ



生協の草創期から組合員と大郷の生産者が共に行ってきた無農薬交流田による稲作。先人が続けてきた交流の米を絶やすまいと、今年も最小限の人数ではありますが、作業を続けました。実りの秋には黄金色の稲穂。大郷グリーンファーマーズの西塚さんに「30年やってきて、今までで最高かもしれねえよ?」と言わせるほどの良い出来となりました! すべて手で植え、手で除草し、手で刈る稲作を通じて、生きる糧を手に入れる苦労と、自然の力を堪能。これからも多くの組合員と守り続けていきたい「交流の田んぼ」です。



ベランダの小さき田んぼ 見る我が子
はさまのカップは 善き指導者かな
バケツ稲選手権@はさま自然村



交流する4産地の中で最も遠方のはさま自然村とは、組合員が各々の家庭でバケツで稲を育て、実ったコメの粒の数を競う「バケツ稲選手権」が行われています。狭い庭でもマンションのベランダでも米作りに挑戦できるこの企画、はさま自然村から生産者の菅原達徳さんが先生として参加し、参加者の栽培の相談に応じてくれています。この12月号編集中にはまだお米の集計中...優勝は誰が勝ち取るのか!?



石けん成分を「有害物質」とはしない結論へ

環境省がPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)に規定する第一種指定化学物質を見直す中で、生分解性が高いはずの石けんの成分を指定しようという動きがあり、あいコープを含む「せっけん運動ネットワーク」に加盟する団体が要望書を提出したり、パブリックコメントを寄せていました。10月、環境省から結果の報告があり、せっけん成分については、PRTR対象物質としないとする結論が明記されています。パブリックコメントでは、石けん成分を有害化学物質に指定することに反対する意見が1100件を超えました、全国のせっけん運動ネットワーク加盟団体の声が反映された形になりました。



石けん利用者増えた! 103.1%

あいコープは石けん派生協。環境負荷の高い石油由来の「合成洗剤」ではなく、使うなら石けんを!と活動を進めています。カタログまま通信にも石けん製品のラインナップは多く、お気に入りの石けんをいつも手に入れられるからと組合員になった方もいるほどです。私たちあいコープが名を連ねる「せっけん運動ネットワーク」は毎年、加盟団体の石けん利用進捗率を調査し、伸びている団体を表彰しています。今年あいコープは利用前年比103.1%の進捗を見せ表彰されました。石けんをたくさん使えばいいというわけではありませんが、一人でも合成洗剤から石けんにチェンジする組合員が増えるのは嬉しい事です。



産直肉「切り落としミックス」は 新商品!?



まんま通信に「切り落としミックス」という商品がお目見え

ミートセンターの稼働に伴い、品質向上を目指すことはもちろん、産直肉の価値をしっかりと理解した上で組合員の利用結果を進めていくことは大きな課題です。食肉市場を介して、産地のお肉を一頭買い(特定の部位だけではなく丸ごと一頭買い受ける)しているあいコープとして、バランスよくお肉を供給し、ロスを最小限にしておく必要があります。

これまで「豚小間肉」としてまんま通信に掲載されていたお肉が、11月1日より「豚切り落としミックス」と表示されるようになります。価格が変わりました。ローススライス、肩スライスなど様々な品目がありますが、形や大きさがそれらの商品の基準を満たさなかったお肉の集まりが「切り落としミックス」になります。

とは言っても、元をたどればこだわり飼育と出所の確かさを持

った自信のお肉。決して「くず肉」というわけではないのです。これまで豚小間肉を利用したところのある組合員には「確かに、あいコープの小間肉には『これ小間じゃなくてロースだよな?』と言えるような立派な一切れが入っていた」という方も多いのでは?そしてもちろんお味は太鼓判です。

形が基準に達していないだけで極端に安価で供給することは、結果的に他の品目との価格バランスを欠き、どこかにしわ寄せが発生します。今後も一頭買いしたお肉を安定供給し続けるためにも、イメージを刷新し、しっかりと価値を感じて買い支えていこう!そんな期待を込めて価格と名称を変更しました。様々なメニューに使いやすい「切り落としミックス」を、これからも宜しく願います。



形や大きさにバラつきはあれど素性の明らかな産直肉であることに変わりはない

ええのうえんのう

仙台えんのう倶楽部の情報を毎月お届けする「のコーナー」第9回は高野恵美子さんです

11月初旬、秋保ゆうきの会、渡辺重貴さんの里芋畑へ3人のえんのうメンバーでお手伝いに行ってきました。この里芋は今年の夏、草に埋れて負けそうになっていた所を、「産地応援」として皆で草取りをして救出した里芋なので、秋保への道中は「無事に育ったかな、草取りの成果はどうだったかな」とドキドキわくわく。畑ではひたすらスコップで掘り、茎を切り落として軽く土を落とす。それを畑から運び出してトラックに積む。見事に育った里芋は一株ひと株がずっしりと重く、恐らく10kgはある模様で、「これ、ヤバイね、腰に来るね」という会話が何度も繰り返されました(笑)

この日掘り上げたのはトラック山盛り3台分。体力は使うものの、丁度見頃になった山の紅葉に囲まれた最高のロケーションの中での畑作業は幸せそのもの!薬剤を使わず元気に育った里芋と、土を掘るたびに顔を出すぐらいミミズ達と向き合いながら、生命(いのち)の喜びを感じることができた、ご褒美の一日でした。



収穫の喜び 全身で表現

理事会議事録抄

2021年 11月2日(火)

- ▼11月以降の組合員活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について決定した▼2021年度組合員交流会の企画案を承認した▼ジョイケア健康チャレンジ企画案を承認した▼放射能問題支援対策室いずみとの甲狀腺エコー検査時強いついて承認した▼大崎住民訴訟緊急募金への協力について承認した▼バランゴバナナ産地における農薬空中散布禁止条例を守るキャンペーンへの賛同を承認した▼共生会幹事会との交流会開催について承認した。

組織概要

(2021年10月分)

【組合員数】	14,605名
【供給高】	230,591千円
【一人実利用高】	5,397円/週
【出資金】	1,265,914千円



◎ マイクロプラスチックの問題は、あいコープにいないと知ることができない事だった。最終的に自分たちの身体に戻ってくると思うとゾッとする。(深沼海岸プラ探しに参加した太白地区委員さんの感想)

始めよう！続けよう！ 石けん生活

11/17 石けん環境委員会
オンライン学習会報告

石けん環境委員会による
「Wa！わぁ祭り企画として「聞いてみよう！石けんの使い方」～エスケー石鹼・太陽油脂

交流会」と題し、オンラインで学習会を開催しました。あいこーぷみやぎ、あいこーぷふくしまを合わせ15名が参加し、エスケー石鹼と太陽油脂の担当者に、組合員から寄せられた質問にお答えいただきました。

今回は「聞いてみよう！」というタイトルの通り、石けんの初心者に向けた洗濯機での粉石けんの使い方、石けんカスや溶け残りの対策方法、またクエン酸、炭酸ソーダ、

酸素系漂白剤などのまんま通信に掲載されている商品の使い方について等詳しく教えて頂きました。

石けん初心者を悩ます「石けんカス」防止には、石けんをしっかり泡立てること、多めの水でゆったりすすぐこと、仕上げにクエン酸や衣類のリンスを使用することが有効だそうです。石けんの初心者にも上級者にも、使ってみよう、続けようと思える交流会だったのではと思います。

また、企業としてプラスチック削減のために、紙製容器に変更するなどの取り組みをしているということもお聞きしました。私たちが合成洗剤ではなく石けんを選び使用すること、そして持続可能な商品を生産してくれている生産者を選ぶことで、今ある環境を守っていくことに繋がると思いました。

石けん環境委員会

理事 佐藤 あきな



パックスナチュロン
粉石けん



私のオススメ商品



私のおすすめ商品は「平飼いこめたまご」です。先日見学させて頂いた鶏舎はとても広々としていてニワトリ達が元気いっぱい動き回っていたのが印象的でした。一般的な鶏舎は、坪当たりなんと78羽もの鶏が飼育されているのに比べ米沢郷牧場では約12羽と、のびのびとした飼育環境です。また、この卵の一番の驚きが卵を割った瞬間。まるで黄身が白い？と勘違いしてしまうほど優しいレモン色なんです。おすすめの料理は「ホワイトオムレツ」です。子供たちもきっと喜びますのでぜひサブライズで作ってあげてください。 事業部供給課 大内直人

編集後記

10月30日から11月27日にかけて開催したWa！わぁ祭り2021。3年ぶりの祭りはオンラインとオフライン両方で企画を展開する初めての試みでした。コロナ禍によって強いられた「オンライン」ですが、生産者と組合員が互いに顔の見える交流を熱望し続けたことで、これまでとは一味違った交流の場を創り出せたと思います。来年は対面で祭りをやりたい気持ちが高まる一方で、遠隔地の生産者とも交流できるしよりパーソナルな話もできるオンラインの良いも引継ぎさらに発展させていきたいものです。

組織運営室長 豊嶋 馨

●機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組合員番号、氏名、電話番号をお書きの上、
配送もしくはFAX (022-284-6973) にて、
あいこーぷみやぎ理事会へ広報宛にお送り下さい。

組合員の皆さんの『つばやき』も大募集中！

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00～15:00

年金相談・1/11(火) 社会保険労務士 清野道子氏

13:30～15:30

法律相談・1/11(火)、1/19(水) 弁護士 倉林千枝子氏

13:30～15:30

傾聴・1/11(火) NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏

10:00～12:00

子ども相談・1/18(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏

10:00～12:00

介護相談 (ケアプランセンター木むれび 山崎彰子氏) は相談希望日をうかがいます。

▼各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。随時受け付け可能です。▼
▼予約して頂いた方には、相談日には相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいこーぷみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2021年10月分)

ささえあい(保障)	1件
たすけあい(ケア)	5件
集団託児	0件
慶弔・出産	24件
電話相談窓口	12件
計	42件

◆集団託児
利用延べ人数 0名
◆ケア時間

7時間
*Covid-19の為、活動を制限していました。



●高齢者の農家ばかりと思っていたので若い人が作っているのを知ってうれしくなりました。自然の中での作業は素晴らしいですが、いろいろ気を使ったり、頑張っても天候に左右されてしまうことに心が痛みました。(天童やっぺしりんごオンライン交流会)

3回連載企画！ あいコープ ジョブチューン in 「Wa!わぁ祭り2021」 第一回 畜産編

あいコープジョブチューンは・・・生産者の人柄やお仕事の中身を知り、日ごろ食べている「美味しいアレ」の作り手さんをもっと知ろう！好きになろう！と企画されたバラエティ企画。3回にわたり開催され、延べ119名が申し込んだ



一大決心で妻の実家を継ぎ、牛飼いになって1年半の元自衛官！
田口農場 小野聡さん



開拓した両親の農地を継ぎ、2百頭あまりの豚を飼育するプロフェッショナル
日向養豚 日向一郎さん



無農薬農業と畜産の地域循環を確立してきた山形県の農の力！
米沢郷牧場 伊藤幸蔵さん



福祉の世界に入ったら畜産業に辿り着いた！わ・は・わ田尻のリーダー
あいあいファーム 大内芳裕さん

約2時間にわたり繰り広げられたトークショー。今回は畜産編という事で4人の生産者が登場です。まずそれぞれのプライベートを皆さんにご紹介して掘りはオッケー。アウトドア大好きな元自衛官が牛飼いに！？豚のキモチが分かる社長のご趣味はなんと尺八！向かうところ敵なしと思えるようなカッコイイ米沢郷代表はキノコが苦手！穏やかそうなわ・は・わ田尻の頑張るリーダーはクルマが趣味のスポーツドライバー！その意外な一面と、お仕事に励む姿のギャップに好感度アップ（≧▽≦）

お仕事を始めたきっかけの話の中で、参加者が特に興味を持ったのは米沢郷の伊藤幸蔵さんの「プチ家出」事件。お米の無農薬栽培で近所とトラブルになり、いい顔しない祖父とぶつかって家を飛び出した！飛んだ先がオーストラリア…果たして「プチ」と言えるのか！？家出先のオーストラリアでもしっかり（ちゃっかり？）農業を学び、一回りも二回りも成長して帰国した幸蔵青年が現在の米沢郷牧場を確立させたのですね～。ザリガニが餌と水質でどう変化するかと実験しながら飼っている研究熱心さも特筆もの。

そして戦後の貧しい時代、現社長のご両親が田尻の地を開拓し農業を始めたことで始まった日向養豚。「長男だから」と責任感たっぷりだった一郎少年はコツコツと豚の飼育を続け今では200

頭を超える豚を飼育する養豚屋さん。餌などを厳選したこだわりの豚肉を生産するのに、今の頭数がちょうどいい規模なのだという話は、納得！

さて、奥様の実家の【田口農場】が、後継者がなく、このままではいづれなくなってしまおう！それは惜しいから俺が継ぐ！と自衛官を辞め畜産業に飛び込んだ小野さんは、牛に蹴られそうになりながら日々奮闘中だそう。微生物の力を活かすこだわりの農場を「なくなるのが惜しい」と感じてくれた小野さんのお陰で、これからきっと田口農場の牛肉がいただけます！ありがとうございます！！

農畜福連携のあいコープの旗印とも言える「社会福祉法人みんなの輪わ・は・わ田尻」の大内さんは、暑さから大切な豚たちを守るためスプリンクラーをDIYする愛ある生産者（時に豚舎を水浸しにしちゃう失敗もあり/笑）。わ・は・わの門を叩いた日、理事長との初面談で「あなた田尻ね♪」とサクッと配属されたことで、農場の責任者になった大内さん。大内さんの現場管理アイデアも活用し、あいあいファームは着実に豚の飼育成績を上げているようですよ！利用者さんの工賃も上げていきたいですね！！

楽しい話やまじめな話、知らなかった話、たくさん聞いたジョブチューン。畜産編と水産編は1月号、2月号でご紹介する予定です。



SUPを楽しむ小野さん



日向さんは尺八を演奏



幸蔵さんの「愛ザリガニ」



大内さんの愛車は漆黒

Calendar *今後のイベント*

予告

Wa!わぁ祭り2021

おかわりっ



約一ヶ月にわたり開催された今回のWa!わぁ祭り、企画盛りだくさんでした！オンラインで開催された各企画を、再放送のようにお届けする「Wa!わぁ祭り おかわりっ」を鋭意計画中。詳細は待て次号！

地区委員さん募集中！

一定例会見学も受付中～

地区委員会は

楽しい!おいしい!学べる!!

あいコープの仲間だから本音トークができます。

お問い合わせ先

☎ 0120-255-044

Fax 0120-849-324

Email soshiki@mamma.coop

(担当:組織運営室長 豊嶋)

